

稲 WCS 用品種「つきすずか」の採種ほ現地検討会を開催しました

令和 2 年 8 月 1 7 日
下都賀農業振興事務所

令和 2 年 8 月 17 日、栃木市及び鹿沼市内の「つきすずか」採種ほ場にて、現地検討会を開催しました。

酪農や肉牛など畜産経営において、稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ、以下 WCS）の利用は、経営の低コスト化や水田の有効活用、食料自給率向上に貢献するものと期待されていますが、一方で稲 WCS の品質が課題となっていました。

近年、この品質を革新的に向上させる極短穂型（粳の数が極めて少ない）品種「つきすずか」などが開発され、普及が始まりましたが、種子の確保が難しいという新たな課題が発生してきました。

そこで、栃木県畜産振興課、上都賀農業振興事務所、下都賀農業振興事務所共催で、採種農家や関係機関 16 名が参加のもと、種子の安定生産に向けた追肥など栽培技術について、「つきすずか」採種ほにて現地検討会を開催しました。

はじめに、栃木市内の採種ほ場 2 ほ場にて生育状況の確認と、最適な穂肥の時期および追肥資材、追肥量の検討を行い、次に鹿沼市内の 2 ほ場にて同様の検討と共に今後の需要に対応した面積拡大などの検討も行いました。

参加した採種農家からは、「つきすずかのニーズが高まっている状況のなか、通常の主食用の稲とは違う新しい栽培技術を早めに確立し、より多くの種子を生産していきたい」との力強い意見が出ていました。



写真 「つきすずか」の追肥時期の判断や量について検討